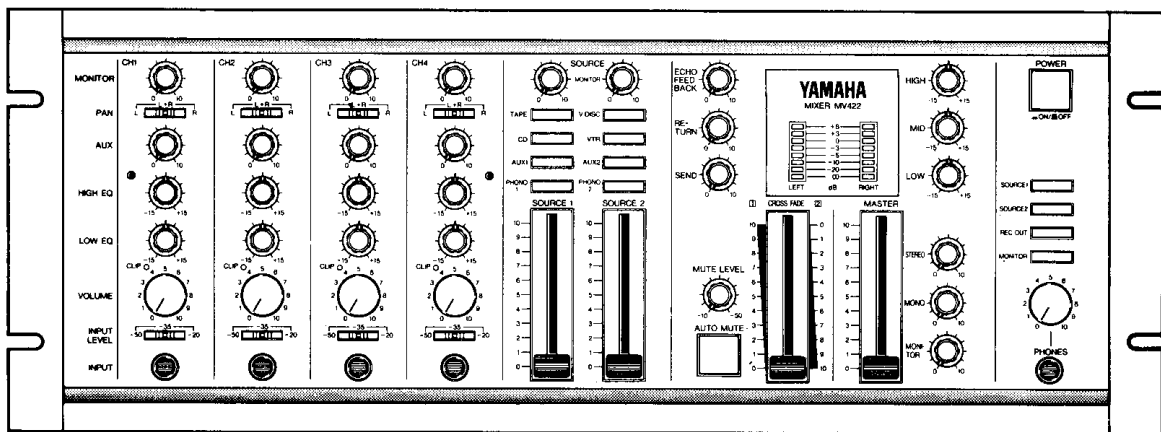


YAMAHA MIXER MV422

取扱説明書



このたびは、YAMAHA ミキサー MV422をお買い求めいただきまして、誠にありがとうございます。
MV422の性能をフルに発揮させると共に、いつまでも支障なくお使いいただくため、ご使用前にこの説明書をよくお読みいただきますよう、よろしくお願いいたします。

————— MV422の特徴と概要 —————

- 飲食店やブティック、結婚式場、宴会場、ディスコなど、特に業務用として最適なミキサーです。また、ビデオ編集にも向いています。
- マイクロホンや楽器を始め、オーディオ機器やAV機器を数多く接続できます。
- 入力した数種類の音声を、ステレオの状態にミキシングして出力できます。
- エコー回路を内蔵しており、声や楽器の音に潤いを与えます。
- リバースやディレイなどの外部エフェクターを接続できます。
- クロスフェーダーのつまみを操作することにより、片方のソースの音量を上げてから、もう片方のソースの音量を下げることができます。(指1本で簡単に操作できます。)ディスコなどで曲と曲のつなぎに間をもたせずに再生する時に便利です。
- オートミュート機能により、喋りに合わせてソースの音量を自動的に下げることが可能です。パーティやディスコに便利です。
- 2種類のAV機器を接続するためのVIDEO端子が装備されています。音声と同時に映像も切り替わりますので大変便利です。
- 豊富な出力端子を装備しています。
- CLIPインジケータとレベルメーターを装備しており、入出力レベルの設定が確実に行えます。
- ミキシングした信号など、様々な信号をステレオヘッドホンでモニターできます。
- セキュリティカバーが付属となっています。セキュリティカバーを取り付けておけば、一度セッティングしたつまみの位置を誤って動かしてしまふことがありません。

————— 目 次 —————

| | |
|-------------------------|----|
| ご使用上の注意 | 2 |
| フロントパネル | 3 |
| リアパネル | 6 |
| セットアップ例 | 8 |
| 機能説明 | |
| クロスフェード | 9 |
| オートミュート | 9 |
| 映像切替(VIDEO端子の使用方法)..... | 9 |
| セキュリティカバーの取り付け | 10 |
| ハウリングについて | 10 |
| ブロックダイアグラム | 11 |
| 仕様 | 12 |
| 寸法図 | 13 |
| サービスについて | 14 |

ご使用上の注意

◆設置場所について

次のような場所でご使用になりますと、故障の原因となりますのでご注意ください。

- 直射日光の当たる場所や、暖房器具のそばなど
- 温度の特に低い場所
- 湿気やホコリの多い場所
- 振動の多い場所

◆無理な力を加えない

スイッチやツマミ類に無理な力を加えることは避けてください。

◆接続について

接続は、各機器の電源スイッチをOFFにしてから行うか、または各ボリュームを絞ってから行ってください。

◆電源について

- 本機は日本国内仕様です。必ずAC100V、50/60Hzの電源コンセントに接続してください。AC100V以外の電源では絶対にご使用にならないでください。
- POWERスイッチは送信機器側から順にONにしてください。またOFFにする時は、逆の順序でOFFにしてください。

◆プラグ類を外す時は

コード部分の断線やショートを防ぐため、プラグ類を外す時は、必ずプラグ部分を持って行ってください。

◆セットの移動

コード部分の断線やショートを防ぐため、セットの移動は、他の機器との配線を取り外してから行ってください。

◆落雷に対する注意

落雷の恐れがある時は、早めにコンセントから電源プラグを抜いてください。

◆ケースを開けない

故障や感電の原因となりますので、ケースを開けたり改造したりしないようにしてください。

なお、何か異物が入った場合には、すぐに電源プラグを抜き、お買い上げ店、もしくは巻末の最寄りのサービスステーションにご相談ください。

◆外装のお手入れについて

外装をベンジンやシンナー系の液体で拭いたり、近くでエアゾールタイプのスプレーを散布しないでください。外装のお手入れの際は、必ず柔らかい布で乾拭きしてください。

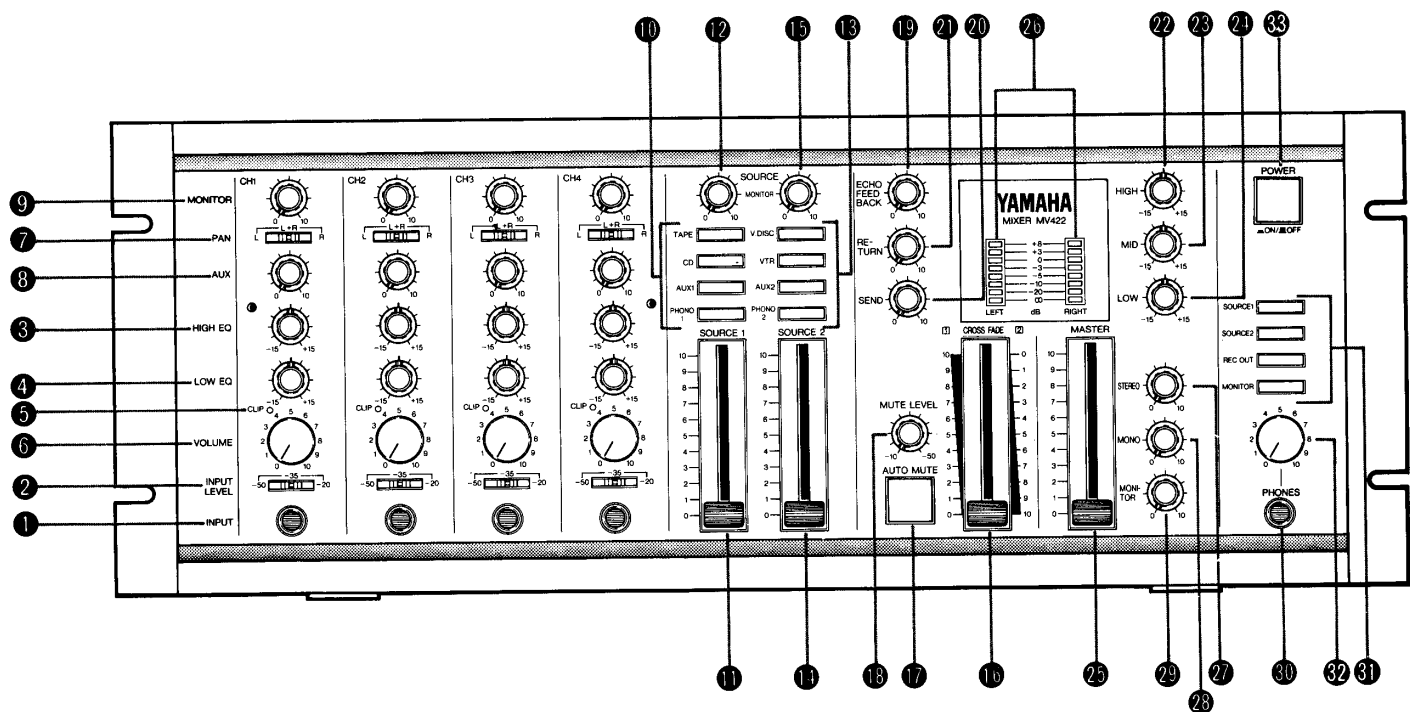
◆保証書の手続きを

お買い求めいただきました際、購入店で必ず保証書の手続きをとってください。保証書に販売店印がありませんと、保証期間中でもサービスが有償となることがあります。

◆保管してください

この取扱説明書をお読みになった後は、保証書と共に大切に保管してください。

フロントパネル



① INPUTジャック

マイクロホンや電気/電子楽器を接続するジャックです。
 ※平衡(バランス)型の入力端子ですが、不平衡(アンバランス)入力も可能です。平衡入力の際はステレオホーンプラグで、不平衡入力の際はモノラルホーンプラグで接続してください。
 ※このジャックとリアパネルのINPUTコネクタの両方に外部機器を接続したチャンネルは、このジャックに接続した機器の音声のみ有効となります。

② INPUT LEVEL切替スイッチ

①の各INPUTジャック(またはリアパネルのINPUTコネクタ)に接続した機器の出力レベルの大きさに応じて、切り替えます。

— 設定のめやす —

| 入力ソース | ポジション |
|-----------------------------------|-------|
| ・電気/電子楽器 ・ローレベルライン(一般オーディオ機器)* | -20 |
| ・電気/電子楽器 ・ハイレベルマイクロホン(コンデンサー型) | -35 |
| ・ローレベルマイクロホン(ダイナミック型) | -50 |

*一般オーディオ機器は、通常はリアパネルの各入力端子(それぞれの名称が付いた端子)に接続します。
 ●適正のポジションにセットしないと、音が歪んだりノイズの目立つ音になります。

③ HIGH EQコントロール

各チャンネルに入力した音声の高域の音質をコントロールできます。つまみが目盛中央の時は音質はフラットで、+側に回すほど高域のレベルが上がり、-側に回すほど下がります。

④ LOW EQコントロール

各チャンネルに入力した音声の低域の音質をコントロールできます。つまみが目盛中央の時は音質はフラットで、+側に回すほど低域のレベルが上がり、-側に回すほど下がります。

⑤ CLIPインジケータ

各チャンネルに入力した音声のレベルが、クリッピングレベル(音声が歪んでしまうレベル)の3 dB手前に達した時、点灯します。このインジケータが頻繁に点灯する場合は、接続した機器の出力ボリュームを下げるか、または②のINPUT LEVEL切替スイッチのポジションを切り替えてください。

⑥ VOLUMEコントロール

各音声の音の大きさを決めるためのつまみです。チャンネルごとに設定し、他の音声とのバランスをとってください。
 ※使用していないチャンネルは、つまみを0の位置にしておいてください。

⑦ PAN (パンポット)

各音声がどこから聞こえるようにするか、選択できます。

- L ポジションにすると……左のスピーカーから聞こえるようになります。
- L + R ポジションにすると…左右両方のスピーカーから聞こえるようになります。
- R ポジションにすると……右のスピーカーから聞こえるようになります。

⑧ AUXコントロール

本機内蔵のエコーで、音声にエコー効果を加える場合に操作します。エコーを加えるチャンネルのつまみを回してください。10側に回すほど、その音声のエコー量が増します。※エコーをかけないチャンネルは、つまみを0の位置にしておいてください。

※AUXコントロールのつまみは⑥のVOLUMEコントロールの後に設けられているため、VOLUMEコントロールを動かすと、エコー量も同時に増します。

※外部エフェクターを接続してその機器で効果を加える時も、同様に操作してください。

⑨ MONITORコントロール

リアパネルのMONITOR OUTジャックにモニターシステムを接続した場合や、⑩のPHONESジャックにヘッドホン接続してモニターする場合に操作します。10側に回すほど、その音声のモニターレベルが上がります。

⑩ SOURCE 1 選択スイッチ

リアパネルのSOURCE 1端子のグループに接続した機器の中で、どの機器の音楽ソースを入力するのか、選択できます。

⑪ SOURCE 1 フェーダー

⑩のスイッチで選んだ音楽ソースの最適音量を設定できます。(⑫のCROSS FADEを上側一杯の状態にした時、ソース1の音楽ソースが最大音量になります。)

⑫ SOURCE 1 MONITORコントロール

リアパネルのMONITOR OUTジャックにモニターシステムを接続した場合や、⑩のPHONESジャックにヘッドホン接続してモニターする場合に操作します。10側に回すほど、ソース1のモニターレベルが上がります。

⑬ SOURCE 2 選択スイッチ

リアパネルのSOURCE 2端子のグループに接続した機器の中で、どの機器の音楽ソースを入力するのか、選択できます。

⑭ SOURCE 2 フェーダー

⑬のスイッチで選んだ音楽ソースの最適音量を設定できます。(⑮のCROSS FADEを下側一杯の状態にした時、ソース2の音楽ソースが最大音量になります。)

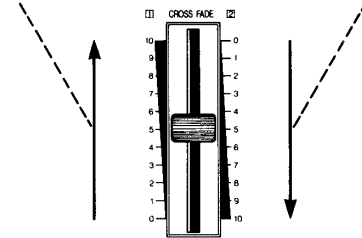
⑮ SOURCE 2 MONITORコントロール

リアパネルのMONITOR OUTジャックにモニターシステムを接続した場合や、⑩のPHONESジャックにヘッドホン接続してモニターする場合に操作します。10側に回すほど、ソース2のモニターレベルが上がります。

⑯ CROSS FADE (クロスフェーダー)

ソース1とソース2の音量バランスを設定できます。

ソース1の音量が上がってから、ソース2の音量が上がってからの音量が下がる。
ソース2の音量が上がってからの音量が下がる。



※9ページの“クロスフェード”を参照してください。

⑰ AUTO MUTEスイッチ

オートミュート機能を使う場合には、このスイッチを押して“■”の状態にします。もう一度押すと“■”の状態に戻り、オートミュート機能が解除されます。(通常は機能をOFFにしておきます。)

オートミュート機能とは?

チャンネル1～4に音声が入ると、自動的にソース1およびソース2の音量が下がる機能。

※9ページの“オートミュート”を参照してください。

※チャンネル1～4に音声が入っても、入力された音声が小さいと、オートミュート機能が働かないことがあります。

⑱ MUTE LEVELコントロール

オートミュート機能が働いた時、どのくらいまでソース1およびソース2の音量が下がるようにするかを設定できます。-50側に回すほど、より音量が下がるようになります。

⑲ ECHO FEEDBACKコントロール

エコーの長さを決めることができます。10側に回すほどエコーのかかっている時間が長くなり、より時間が経過してから音が消えるようになります。

※外部エフェクターを接続した時は、このつまみは使用しません。

⑳ SENDコントロール

外部エフェクターを接続した時のみ操作します。つまみを10側に回すほど、外部エフェクターに送られる信号のレベルが大きくなります。

㉑ RETURNコントロール

本機内蔵のエコーを使う場合も、外部エフェクターを使う場合も同じように使用します。つまみを10側に回すほど、エコー(または外部エフェクターによる効果)の音量が、全音声共に大きくなります。

※どの音声にも全くエコー(または外部エフェクターによる効果)をかけない時は、つまみを0の位置にしておいてください。

② MASTER HIGH EQコントロール

③ MASTER MID EQコントロール

④ MASTER LOW EQコントロール

本機でミキシングした音の音質を、高域,中域,低域に分けて最終的にコントロールできます。

⑤ MASTERフェーダー

本機でミキシングした音の音量を最終的にコントロールして、本機のメイン出力端子であるMASTER OUTジャックに出力します。

⑥ レベルメーター

MASTER OUTジャックに出力する音のレベルを表示します。このメーターを見ながら、⑤のMASTERフェーダーをコントロールしてください。

なお、メーターが振り切れると音が歪んでしまう可能性があります。頻繁に振り切れる時は、MASTERフェーダーを下げてください。

⑦ STEREOコントロール

本機でミキシングした音の音量を最終的にコントロールして、本機のST OUTジャックに出力します。

⑧ MONOコントロール

本機でミキシングした音の音量を最終的にコントロールして、本機のMONO OUTジャックに出力します。

⑨ MONITORコントロール

モニター音の音量を最終的にコントロールして、本機のMONITOR OUTジャックに出力します。

⑩ PHONESジャック

このジャックにヘッドホンを接続することにより、⑪のヘッドホンモニター選択スイッチで選んだ音をヘッドホンでモニターできます。ステレオヘッドホンをご使用ください。

⑪ ヘッドホンモニター選択スイッチ

どのポイントの音をヘッドホンでモニターするか、選択できます。

- SOURCE 1を押すと ……………入力した時点でのソース1の音を聞くことができます。
- SOURCE 2を押すと ……………入力した時点でのソース2の音を聞くことができます。
- REC OUTを押すと ……………REC OUTジャックに出力する音を聞くことができます。
- MONITORを押すと ……………MONITOR OUTジャックに出力する音を聞くことができます。

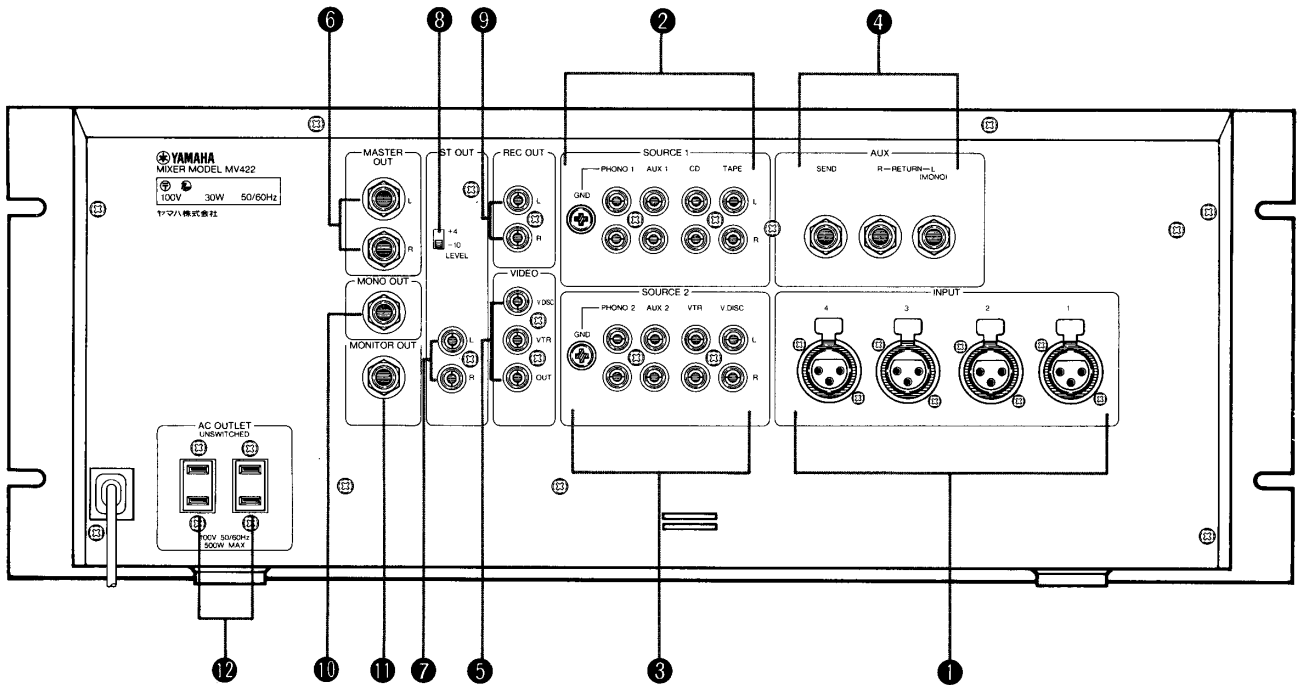
⑫ PHONESボリュームコントロール

ヘッドホンの音量をコントロールできます。

⑬ POWERスイッチ

電源スイッチです。ONにすると、レベルメーターの“∞”が点灯します。

リアパネル



① INPUTコネクタ

マイクロホンや電気/電子楽器を接続するコネクタです。
 ※平衡(バランス)型の入力端子で、XLRタイプコネクタを使用しています。このコネクタはDIN規格にもとづき配線されており、1番シールド(アース)、2番ホット、3番コールドの接続形式です。

② SOURCE 1 端子

4種類の機器を接続でき、ソースは、フロントパネルのSOURCE 1 選択スイッチで選択できます。各端子に次の機器を接続します。

- TAPEジャック ……………テーブデッキ
- CDジャック ……………コンパクトディスクプレーヤ
- AUX 1ジャック ……………一般オーディオ機器
- PHONO 1ジャック ……………レコードプレーヤ (GND端子には、レコードプレーヤのアース線を接続してください。)

③ SOURCE 2 端子

4種類の機器を接続でき、ソースは、フロントパネルのSOURCE 2 選択スイッチで選択できます。各端子に次の機器を接続します。

- V. DISCジャック ……………VHDプレーヤ/レーザービジョンプレーヤ/CDビデオプレーヤ
- VTRジャック ……………ビデオデッキ
- AUX 2ジャック ……………一般オーディオ機器
- PHONO 2ジャック ……………レコードプレーヤ (GND端子には、レコードプレーヤのアース線を接続してください。)

※ PHONOジャックに接続するレコードプレーヤは、MM(ムービングマグネット)タイプのカートリッジがついたものをご使用ください。

④ AUX 端子

リバーブやディレイなどの外部エフェクターを挿入する端子です。

- AUX SENDジャック ……………外部エフェクターへ音声を送出
- AUX RETURNジャック ……………外部エフェクターで得た効果を入力

※外部エフェクターを接続すると、本機内部のエコーは働かなくなります。

※1イン/2アウトの外部エフェクターを接続できますが、外部エフェクターの出力がモノラルの場合は、L(MONO)側にもみ接続してください。

⑤ VIDEO 端子

ビデオ機能を働かせる場合に使用します。各端子の役割は次の通りです。

- V. DISCジャック ……………③のV. DISCジャックに接続した機器の映像信号を入力
- VTRジャック ……………③のVTRジャックに接続した機器の映像信号を入力
- VIDEO OUT ……………モニターTVの映像入力端子へ、選択されたソースの映像信号を出力

このように接続することにより、モニターTVに映し出される映像は、ソース2の音声と一致ようになります。たとえば、SOURCE 2 選択スイッチを“VTR”の状態に

すると、ソース2の音はビデオデッキの音になり、モニターTVに映し出される映像はビデオデッキの映像になります。

※9ページの“映像切替”を参照してください。

⑥ MASTER OUTジャック

メインスピーカー駆動用のパワーアンプに接続します。

⑦ ST OUTジャック

サラウンドプロセッサを接続したり、部屋が広くてメインスピーカーが2台だけでは物足りない場合などに、サブスピーカーを駆動するパワーアンプに接続します。

⑧ ST OUT LEVEL切替スイッチ

ST OUTジャックに接続した機器の規定入力レベルに応じて切り替えます。通常は-10側にしておきますが、それでは出力レベルが小さすぎる時、+4側に切り替えます。

⑨ REC OUTジャック

録音用のテープデッキを接続します。

⑩ MONO OUTジャック

オペレーター用のモニター補助端子として使用したり、廊下や洗面所など、部屋の外にもスピーカーを設置したい場合などに使用します。それらのスピーカーを駆動するパワーアンプに接続してください。

⑪ MONITOR OUTジャック

モニタースピーカー駆動用のパワーアンプを接続します。

⑫ AC OUTLET端子

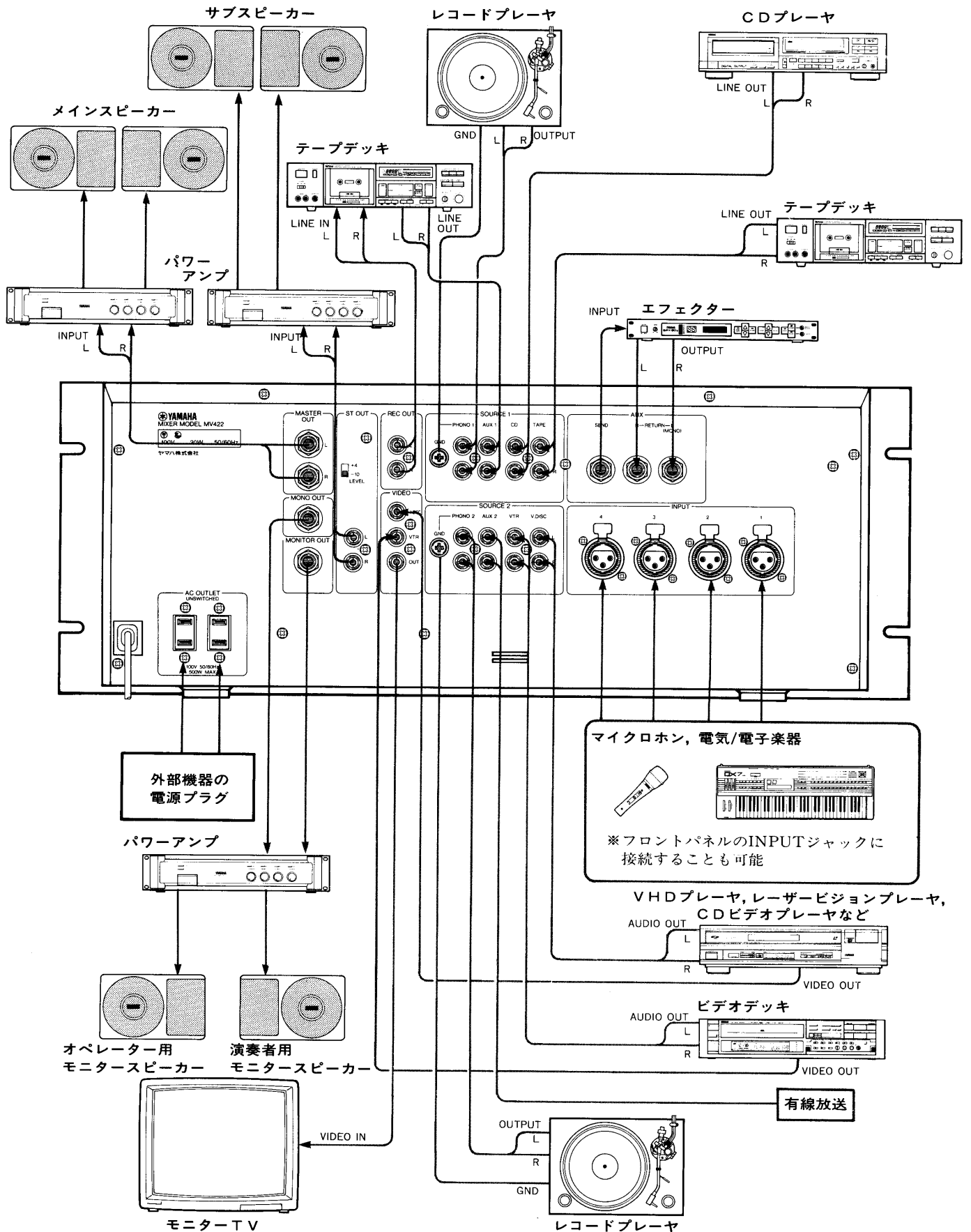
外部機器の電源プラグを接続できます。

※2種類の機器を接続できますが、消費電力の合計レベルが500Wを越えないようにしてください。

※スイッチ非連動式ですから、本機のPOWERスイッチをOFFにしても、外部機器の電源がOFFになることはありません。

※本機の電源プラグは、できればACコンセントに直接接続してください。やむをえず電源延長コードをご使用になれる場合は、安全のため容量の大きな太めのものをご使用ください。

セットアップ例



機能説明

■クロスフェード

本機にはソース1とソース2の音量バランスをコントロールできるクロスフェード機能があります。クロスフェード機能は、CROSS FADEのつまみを1つ操作するだけで、片方のソースの音量が上がり、逆にもう片方のソースの音量が下がる機能です。もしこのつまみがなかった場合、同じことを行うなら、SOURCE 1フェーダーとSOURCE 2フェーダーを逆の方向に、同時に動かさなければなりません。

このクロスフェード機能により、ディスコやラジオの音楽番組などで使う、曲を次々とつなげて再生していくテクニックを容易に実行できます。オリジナルのビデオやテープを編集する時にも大変有効的です。

クロスフェードプレイ

1)再生機器の選択

- ①ソース1のグループの中から再生用の機器を選びます。たとえばCDプレーヤを使うなら、SOURCE 1選択スイッチを“CD”の状態にします。
- ②ソース1と同様に、ソース2のグループの中から再生用の機器を選びます。

2)ソース1およびソース2の音量をあらかじめ調節

- ③CROSS FADEのつまみを上側一杯の状態にします。つまり、ソース1だけが再生されるようにします。
- ④この状態でソース1をスタートさせ、ソース1だけが再生される時の好みの音量にします。SOURCE 1フェーダーで設定します。
- ⑤次にCROSS FADEのつまみを下側一杯の状態にしたうえでSOURCE 2フェーダーを動かし、ソース2を好みの音量にします。

3)クロスフェードプレイ

- ⑥CROSS FADEのつまみをどちらか一杯の状態にします。たとえば先にソース1を再生するなら、上側一杯の状態にします。
- ⑦先に再生する方の曲をスタートさせます。
- ⑧先にスタートさせた曲が終わらないうちに、タイミングを合わせながら後追いの曲を再生します。
- ⑨CROSS FADEつまみを逆方向にスライドさせて、後追いの曲に変更します。

■オートミュート

ディスコやラジオの音楽番組などで、DJが喋りを入れた瞬間だけ音楽の音量が下がることがあります。この時ほとんどの場合が、DJは自分で音量を下げています。

本機では、このようなテクニックを使う時のために、オートミュート機能を用意しています。オートミュート機能は自分でフェーダーを動かして音量を下げなくても、喋りを入れた時だけ自動的にソース1とソース2の音量が下がる機能です。これは、パーティやアナウンスで使える便利な機能です。

オートミュートプレイ

1)マイクロホンのレベル調節

- ①マイクロホンを接続して実際に喋ってみます。調度いい音量になるようレベル調節してください。

2)ミュートレベルを決定

- ②AUTO MUTEスイッチをON “**—**” の状態にします。
- ③MUTE LEVELコントロールのつまみを、一度目盛中央付近にします。
- ④音楽を再生します。音楽はソース1,2のどちらでもかまいません。
- ⑤マイクロホンで、喋りを入れてみます。するとミュートがかかり、音楽の音量が自動的に下がります。そして下がった時の音楽の大きさが好みの音量になるよう、MUTE LEVELコントロールのつまみを調整します。たとえば、よりミュートさせたい(より音楽を抑え込みたい)場合には、つまみを-50方向に回します。
※マイクロホンのレベル設定が小さかったり、声が小さかったりすると、うまくミュートがかからない場合があります。ミュートがかからない時は、主にこれらの点をチェックしてください。
※ミュートは喋ると瞬時にかかり、喋った後約2秒後に通常の音量に復帰します。

3)オートミュートプレイ

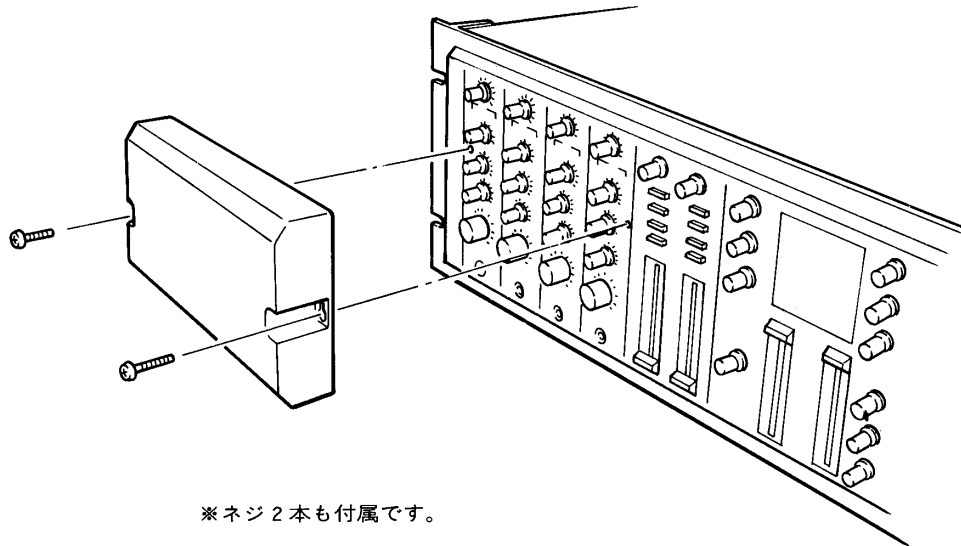
- ⑥準備完了です。オートミュートプレイが可能です。
※ミュート時間や復帰時間は一般的な使用を想定して設定してありますが、設定値を変えたい場合には、販売店もしくは最寄りのヤマハ拠点にご相談ください。

■映像切替 (VIDEO端子の使用方法)

本機のSOURCE 2端子には2種類のAV機器を接続できますが、SOURCE 2選択スイッチをV.DISCまたはVTRの状態にすると、モニターTVに映し出される映像は切り替えられた音声と一致します。これは映像の機能を合わせ持ったカラオケシステムを組む場合に非常に便利です。たとえばVTRジャックには常に流しておくAV機器を接続しておき、V.DISCジャックにはカラオケ用のAV機器を接続しておきます。そして、通常はSOURCE 2選択スイッチをVTRの状態にしておき、カラオケを行う時だけスイッチをV.DISCの状態にします。すると、スイッチを切り替えた時、音声および映像はカラオケのものに切り替わります。

セキュリティカバーの取り付け

一度セッティングしたチャンネル1～4のスイッチやツマミの位置を後でほとんど変更しない場合には、付属のセキュリティカバーを取り付けることをお勧めします。不用意にツマミを動かしてしまうことがなくなり、安全です。



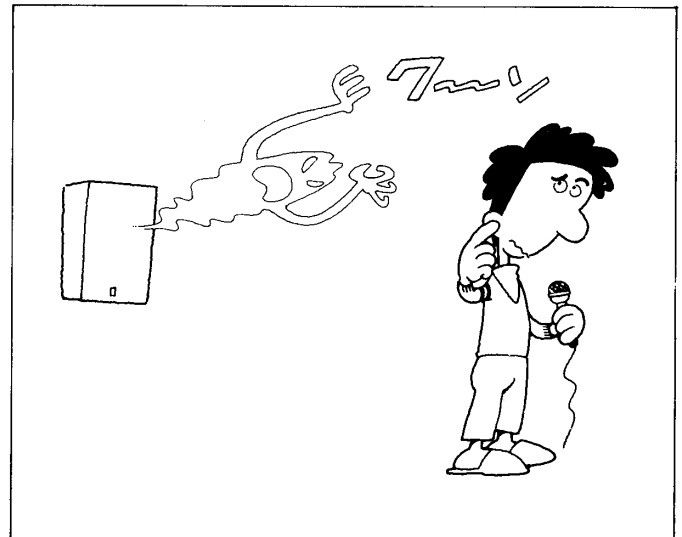
ハウリングについて

スピーカーとマイクロホンの位置が近すぎたり、部屋の特性上の問題から、スピーカーから出た音がマイクロホンに回り込み「ワーン」という発振音が発生することがあります。

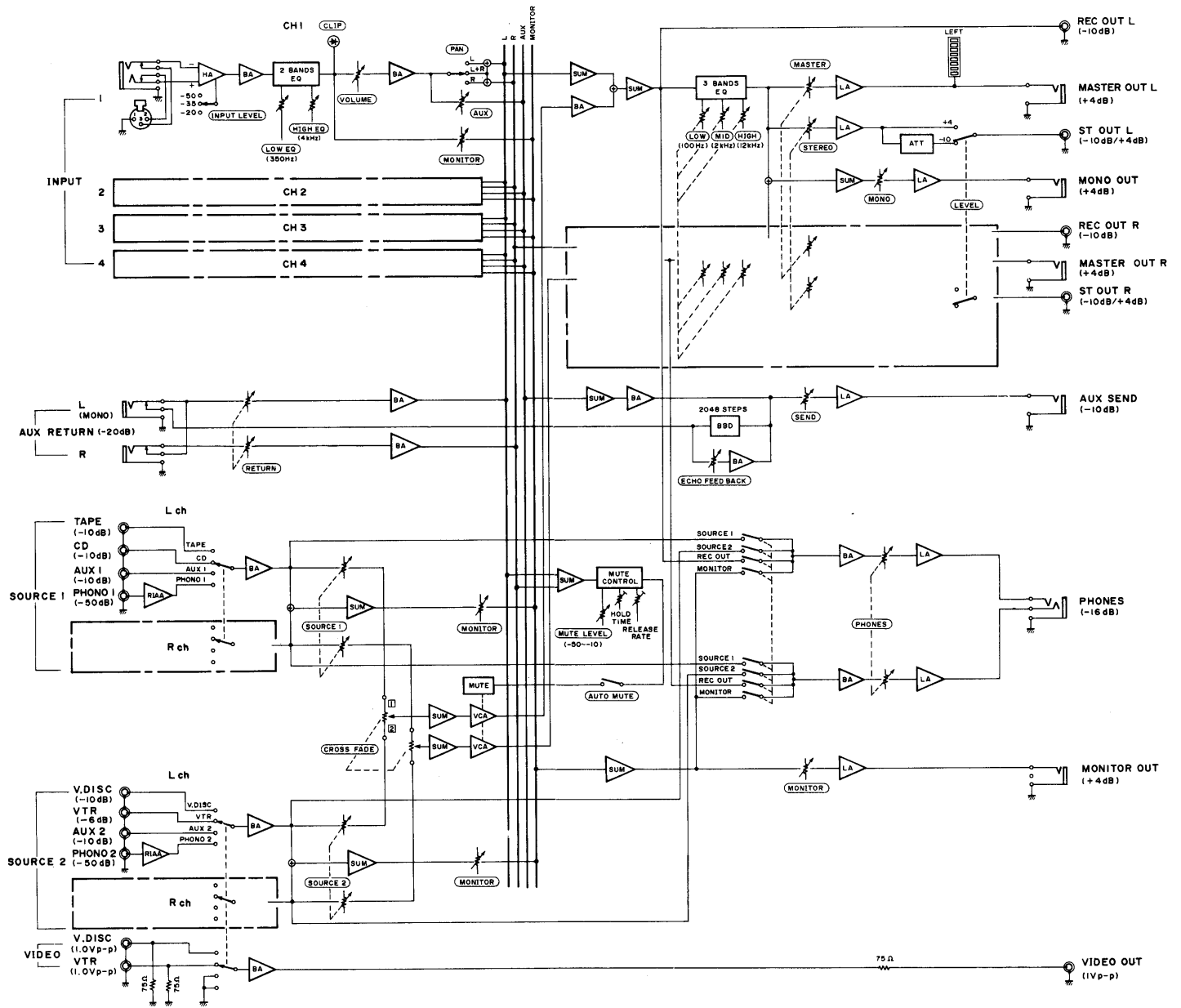
このような現象をハウリングと言います。ハウリングは大変不快なものです。ハウリングを起こさないよう下記の点にご注意ください。

- スピーカーにマイクロホン近づけない。
- スピーカー側にマイクロホン向けない。
- マイクロホンを手で覆わない。
- 必要以上に音量を上げない。
- 必要以上に低域や高域を上げない。

またハウリングが起きてしまったら、速やかに音量を下げる等の対処をしてください。時には機材を傷めてしまうこともあります。



ブロックダイアグラム



仕様

周波数特性 (MASTER OUT, ST OUT, MONO OUT, MONITOR OUT)
20Hz~20kHz 0±1.5dB(@+4dB)

全高調波歪率
0.1%以下 (20Hz~20kHz, MASTER OUT, @ +14dB)

ハム&ノイズ*(20Hz~20kHz, Rs=150Ω)
 入力換算ノイズ -126dB(INPUT LEVEL切替 → -50)
 MASTER OUT,
 ST OUT,
 MONO OUT -90dB (残留ノイズ)
 -80dB (マスター → ノミナル,
 全チャンネルVOLUME → 最小)
 -68dB (マスター → ノミナル,
 全チャンネルVOLUME → ノミナル,
 INPUT LEVEL切替 → -50)
 AUX SEND -94dB (残留ノイズ)
 -80dB (SEND → ノミナル,
 全チャンネルAUX → 最小)

最大電圧利得
 INPUT 1~4 → MASTER OUT L, R
 (INPUT LEVEL切替 → -50) 66dB
 INPUT 1~4 → MASTER OUT L, R
 (INPUT LEVEL切替 → -20) 36dB
 SOURCE 1(TAPE) → MASTER OUT L, R 26dB
 SOURCE 1(CD) → MASTER OUT L, R 26dB
 SOURCE 1, 2(AUX) → MASTER OUT L, R 26dB
 SOURCE 2(V. DISC) → MASTER OUT L, R 26dB
 SOURCE 2(VTR) → MASTER OUT L, R 22dB
 SOURCE 1, 2(PHONO) → MASTER OUT L, R 66dB

AUX RETURN L, R → MASTER OUT L, R 36dB

クロストーク(1kHz) -60dB以下

チャンネルイコライザー特性
 HIGH ±15dB(4kHz ピーキング)
 LOW ±15dB(350Hz ピーキング)

マスターイコライザー特性
 HIGH ±15dB(12kHz シェルビング)
 MID ±15dB(2kHz ピーキング)
 LOW ±15dB(100Hz シェルビング)

CLIPインジケータ
 各チャンネルのイコライザー後段において、クリッピングレベルの3dB手前で赤色点灯

レベルメーター MASTER OUTの出力レベル表示(8素子表示)

オートミュート
 SOURCE 1, 2の出力を最大-50dBミュート (@ 1kHz)

クロスフェーダー
 SOURCE 1または2の出力を最大-60dB減衰

VIDEO信号S/N 50dB

電源 AC100V, 50/60Hz
 消費電力 30W
 寸法(W×H×D) 480mm×177mm×247mm
 重量 6.5kg

付属品 セキュリティカバー, カバー固定ネジ×2

*@12.7kHz、-6dB/oct.のLPFにて補正

●0dB=0.775Vr.m.s.

●仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

■入力仕様

| 入力端子 | INPUT LEVEL | 入力インピーダンス | ソースインピーダンス | 感度** (最大ゲイン) | 入力レベル | | 使用コネクタ |
|--------------------|-------------|-----------|-----------------------|---------------|---------------|--------------|----------------------------|
| | | | | | 規定レベル | 最大ノンクリップレベル | |
| CH INPUT 1~4 | -50 | 20kΩ | 150~600Ωマイク & 600Ωライン | -62dB(0.62mV) | -50dB(2.5mV) | -20dB(78mV) | XLR-3-31タイプ & ホーンジャック(TRS) |
| | -35 | | | -47dB(3.5mV) | -35dB(13.8mV) | -5dB(436mV) | |
| | -20 | | | -32dB(19mV) | -20dB(78mV) | +10dB(2.45V) | |
| SOURCE 1, 2 | PHONO | 47kΩ | — | -62dB(0.62mV) | -50dB(2.5mV) | -20dB(78mV) | RCAピンジャック |
| | VTR | 10kΩ | — | -18dB(97mV) | -6dB(388mV) | +24dB(12.3V) | |
| | その他 | 10kΩ | — | -22dB(62mV) | -10dB(245mV) | +20dB(7.75V) | |
| AUX RETURN L,R | | 10kΩ | 600Ωライン | -32dB(19mV) | -20dB(78mV) | +10dB(2.45V) | ホーンジャック |
| VIDEO (V.DIS, VTR) | | 75Ω | 75Ω | — | 1.0V p-p | 1.5V p-p | RCAピンジャック |

■出力仕様

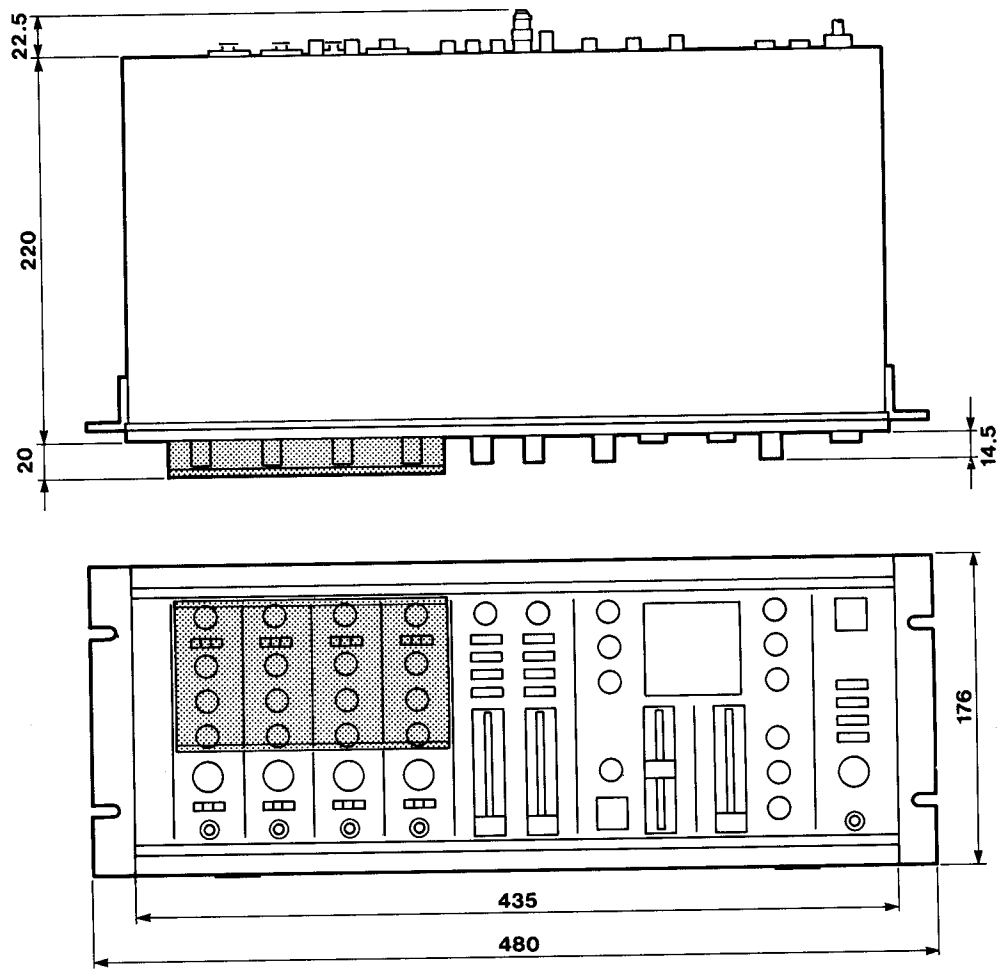
| 出力端子 | LEVEL | 出力インピーダンス | 負荷インピーダンス | 出力レベル | | 使用コネクタ |
|-----------------|-------|-----------|-----------|--------------|--------------|-------------|
| | | | | 規定レベル | 最大ノンクリップレベル | |
| MASTER OUT L, R | | 600Ω | 10kΩライン | +4dB(1.23V) | +20dB(7.75V) | ホーンジャック |
| ST OUT L, R | -10dB | 600Ω | 10kΩライン | -10dB(245mV) | +6dB(1.55V) | RCAピンジャック |
| | +4dB | | | +4dB(1.23V) | +20dB(7.75V) | |
| REC OUT L, R | | 600Ω | 10kΩライン | -10dB(245mV) | +20dB(7.75V) | RCAピンジャック |
| AUX SEND | | 600Ω | 10kΩライン | -10dB(245mV) | +20dB(7.75V) | ホーンジャック |
| MONO OUT | | 600Ω | 10kΩライン | +4dB(1.23V) | +20dB(7.75V) | ホーンジャック |
| MONITOR OUT | | 600Ω | 10kΩライン | +4dB(1.23V) | +20dB(7.75V) | ホーンジャック |
| PHONES | | 100Ω | 8Ωヘッドホン | -16dB(1.9mW) | -4.5dB(40mW) | ステレオホーンジャック |
| VIDEO OUT | | 75Ω | 75Ω | 1V p-p | 1.5V p-p | RCAピンジャック |

** 感度は、規定の出力レベルを得るために必要な最低入力レベルです。

●XLRタイプコネクタおよびINPUTのTRSホーンジャックは平衡(バランス)、その他は全て不平衡(アンバランス)です。

●0dB=0.775Vr.m.s.

寸法図



単位：mm

サービスについて

本機の保証期間は、保証書によりご購入から1ヶ年で
す。(現金、ローン、月賦などによる区別はございません。
)また保証は日本国内にてのみ有効といたします。

●保証書

保証書をお受け取りのときは、お客さまのご住所、お
名前、お買い上げ月日、販売店名などを必ずご確認ください。
無記名の場合は無効となりますので、くれぐ
れもご注意ください。

●保証書は大切にしましょう!

保証書は弊社が、本機をご購入いただいたお客さまに
ご購入の日から向う1カ年間の無償サービスをお約束
申しあげるものですが、万一紛失なさいますと保証期
間中であつても実費を頂戴させていただくことになり
ます。万一の場合に備えて、いつでもご提示いただけ
ますように充分ご配慮のうえで保管してください。ま
た、保証期間が切れましてもお捨てにならないでくだ
さい。後々のサービスに際しての機種判別や、サー
ビス依頼店の確認など便利にご利用いただけます。

■YAMAHA 電気音響製品サービス拠点 (お預り修理窓口)

| | |
|----------------|--|
| 東京電音サービスセンター | 〒211 川崎市中原区木月1184 TEL (044) 434-3100 |
| 新潟電音サービスステーション | 〒950 新潟市万代1-4-8(シルバーホールビル2F) TEL (025) 243-4321 |
| 大阪電音サービスセンター | 〒565 吹田市新芦屋下1-16(千里丘センター内) TEL (06) 877-5262 |
| 四国電音サービスステーション | 〒760 高松市丸龜町8-7(ヤマハ高松店内) TEL (0878) 51-7777, 22-3045 |
| 名古屋電音サービスセンター | 〒454 名古屋市中川区玉川町2-1-2 (ヤマハ名古屋流通センター3F) TEL (052) 652-2230 |
| 九州電音サービスセンター | 〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL (092) 472-2134 |
| 北海道電音サービスセンター | 〒065 札幌市東区本町1条9丁目3番地 TEL (011) 781-3621 |
| 仙台電音サービスセンター | 〒983 仙台市卸町5丁目7(卸商共同配送センター3F) TEL (022) 236-0249 |
| 広島電音サービスセンター | 〒731-01 広島市安佐南区紙屋町西原2-27-39 TEL (082) 874-3787 |
| 浜松電音サービスセンター | 〒435 浜松市上西町911 TEL (0534) 65-6711 |
| 本 社 | |
| 電 音 サ ー ビ ス 部 | 〒435 浜松市上西町911 TEL (0534) 65-1158 |

*住所及び電話番号は変更になる場合があります。

●保証期間中のサービス

保証期間中に万一故障が発生した場合、お買上げ店に
ご連絡頂きますと、技術者が修理・調整致します。こ
の際必ず保証書をご提示ください。保証書なき場合に
はサービス料金を頂く場合もあります。又お買上げ
店より遠方に移転される場合は、事前にお買上げ店あ
るいは電音サービス拠点にご連絡ください。移転先
におけるサービス担当店をご紹介申し上げますと同時に、
引続き保証期間中のサービスを責任をもって行なうよ
う手続き致します。

満1カ年の保証期間を過ぎますとサービスは有料とな
りますが、引き続き責任をもってサービスをさせてい
ただきます。なお、補修用性能部品の保有期間は最低
8年となっています。そのほかご不明の点などござい
ましたら、下記のヤマハサービス網までお問い合わせく
ださい。

ヤマハ株式会社 LM事業本部

| | |
|-----------|--|
| 音響システム事業部 | 〒430 浜松市中沢町10-1 TEL 0534(60)2493 |
| 国内営業部 | 〒150 渋谷区道玄坂2-10-7 新大宗ビル3F TEL 03(476)1521 |
| 東京事業所 | 〒104 東京都中央区銀座7-11-3 矢島ビル TEL 03(574)8592 |
| 大阪事業所 | 〒542 大阪市南区南船場3-12-9 心齋橋プラザビル東館 TEL 06(252)5231 |
| 名古屋営業所 | 〒460 名古屋市中区錦1-18-28 TEL 052(201)5145 |
| 九州営業所 | 〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL 092(472)2155 |
| 札幌営業所 | 〒064 札幌市中央区南十条西1丁目 ヤマハセンター TEL 011(512)6113 |
| 仙台営業所 | 〒980 仙台市大町2-2-10 TEL 022(222)6146 |
| 広島営業所 | 〒730 広島市中区紙屋町1-1-18 TEL 082(244)3744 |

YAMAHA